フミコム

地域連携ステーション

事業報告書

2018 2017 2016

もくじ

はじめに — P03
フミコムとは？ — P04〜P05
フミコムができるまで — P06〜P07
マッチング・コーディネート事業
Bチャレ 提案公募型協働事業 — P08〜P13
Bチャレ以外のマッチング・コーディネート — P14〜P16
相談事業 — P17
講座事業 — P18〜P21
課題と展望 — P22〜P23
フミコムcafe実施実績一覧 — P24
フミコム実施講座一覧 — P25
おわりに — P26

フミコム
地域連携ステーション

はじめに

平素より当協議会へのご支援を賜り、ありがとうございます。

平成28年に地域連携ステーション フミコムを設置してから4年目に入りました。

「福祉」を中心とした事業を行ってきた文京区社会福祉協議会が、「福祉以外のネットワークづくり」にまさに踏み込むことができ、なんとか４年目を迎えることができたのは、さまざまな方のご理解とご協力があったからこそだと感じております。

この3年間行ってきた事業やサポートさせていただいた団体運営について、ここに記録としてまとめ、今後の事業に生かしていきたいと考えています。

4年目を迎え、フミコムには文京区内の活動者だけではなく、「何か面白いことをやっている」「社協が運営する市民活動の拠点とはどんなものか」などの関心で、区外や都外の活動者や行政・他の社会福祉協議会の方々にも来ていただくことが増えてきました。

一方で、「地域課題解決を目的とした協働を推進する拠点」として運営をしていくことについてはまだまだ多くの課題がありますが、Bチャレ（提案公募型協働事業）をはじめとした協働を担うプロジェクトの推進機関として、「地域課題の解決」に力を入れていきたいと考えています。

これからも、社会福祉協議会が運営する強みを活かした中間支援施設として取り組みを進めていく所存ですので、皆さまのご理解とご協力を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

フミコムは、新たな担い手の創出や新たなつながりによる
地域課題の解決や地域活性化を目指して
各種事業を行っている協働の拠点です。

「フミ＝文の京」
「コム＝community（地域）、communication（コミュニケーション）」
「踏み込む」
の意味を込めています。この場所では、さまざまな地域活動を促進し、
活動者が主体的に地域に向けて「踏み込む」ことができるような施設を目指します。

フミコム 3 大事業

つなげる

Bチャレ（提案公募型協働事業）をはじめとして、地域活性化や課題解決のための**マッチング・コーディネート**事業を行っています。

→ P08

きく

地域活動や地域連携に関する総合相談など、さまざまな**相談**を受け付けています。

→ P17

つどう・まなぶ

活動へのきっかけとなるようなものから、団体の運営スキルを高めるものまで、幅広い**講座**事業を行っています。

→ P18

フミコムとは？？

印刷室・ロッカー室・貸出機材を利用される場合には、
団体登録が必要です。登録や詳細については、
どっとフミコム
https://www.d-fumi.com をご覧ください。

フミコムと協働

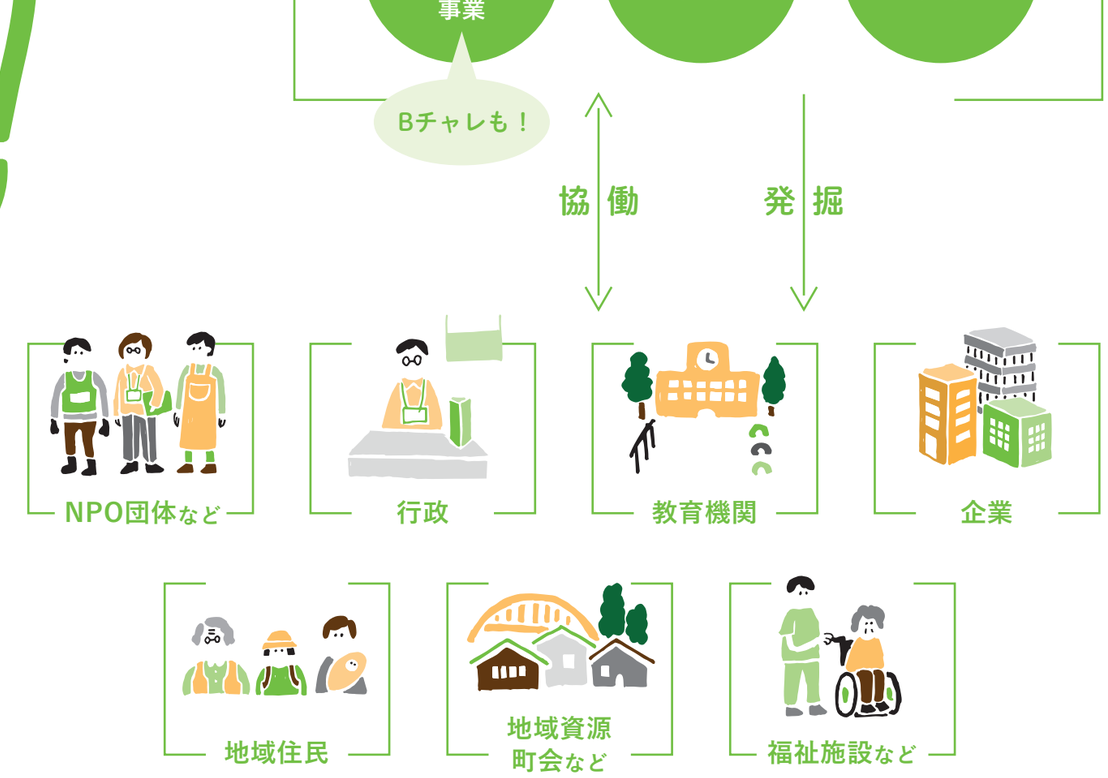
昭和61年に開設したボランティアセンターは、ボランティアしたい、してほしい人をつなげる役割を担ってきました。しかし、窓口に「助けてほしい」と来ない・来ることができない人に対しては十分に対応できていませんでした。そこで、平成24年から地域福祉コーディネーターを配置し、地域に出かけてさまざまな相談を受ける体制を充実させてきました。そしてその相談に対応していくための福祉以外のネットワークの重要性も議論され始め、フミコムの立ち上げにつながりました。

ボランティアセンター

ボランティア・市民活動の推進を目的として、それらに関する相談受付・活動紹介・コーディネートや、ボランティア・市民活動団体への支援、団体同士のネットワークづくりなどを行っています。

地域福祉コーディネーター

制度の狭間にあったり、複雑な課題に対し、さまざまなネットワークを活かして個人への支援を行います。また、地域の中で住民が行う活動の立ち上げや運営などを支援するという役割があります。



フミコムができるまで

文京区は、平成17年(2005年)4月に施行した「文の京」自治基本条例 の中で「協働・協治」を自治の理念と位置づけ、以下のようなプロセスで協働推進を議論し、進めてきました。

平成23年(2011年)度から開催された**文京区新たな公共の担い手専門家会議**が設置され、平成24年(2012年)に専門家会議から区長へ**「文京区と新たな公共の担い手との協働の推進～文京区から始まるソーシャルイノベーションに向けて～」**と題した提言書が提出されました。

提言書の中では、提言1として「区の基本姿勢」や提言２として具体的な手法として「担い手創出の新たなスキーム」として、3つのステージが描かれました。ステージ1は「多様な主体が地域課題について語り合いアイデアを抽出し、プランを練る。ステージ2は、そのアイデアを何らかの形にしていく。そしてステージ3は、継続的に質の高い公共サービスを提供できるようになるというものです。

また、それらの進行管理などスキーム全体の運用を管理する核となる組織の必要性と、アドバイザリーボード（専門的知見を有する者）や文京区、プロジェクトリーダーの役割分担についても明記されました。

この提言を受け、平成25年(2013年)度から始まった**新たな公共プロジェクト**は、提言で示されたステージ1の方向性からスタートし、3年間にわたり情報発信やネットワークづくりを通しての「担い手創出のための土壌づくり」や「事業のスタートアップ」としての講座やサポート、プロジェクト支援制度を通して「プロフェッショナルの担い手」による協働事業の立ち上げなどを行ってきました。

これらの取り組みにより、今までつながっていなかったさまざまな区民が参画し、担い手層の拡大につながりました。

一方、課題としては、提言の「ステージ3」に到達する担い手が十分に育成できなかったこと、文京区の設定した課題と民間の内発的な活動テーマが合わないことが挙げられました。また、既存の地縁組織（町会・自治会）、NPO及び企業と「新たな公共の担い手」とのつながりが十分と言えなかったこと、他地域からの団体への経営的サポートの必要性や、1対1の協働から分野横断的な活動グループのコレクティブ・インパクトに発想を転換する必要性などが指摘されました。

このような議論の流れを受け、市民活動の拠点となる中間支援施設の運営を行うことになった社会福祉協議会では、以下のようなプロセスを経て、文京区における中間支援施設の在り方や運営について検討委員会を立ち上げました。

それまで社会福祉協議会が担っていたボランティア・市民活動センターの機能拡大をイメージし、**中間支援パワーアッププロジェクト**とし、関わりのあったボランティア・NPO団体、新たな公共の担い手プロジェクトにおけるさまざまな活動者、また企業や行政の担当者とともに、中間施設に求められる役割や機能、具体的な運営イメージなどについて議論を行い、**フミコム** が誕生しました。

文京区の動き

2005 「文の京」自治基本条例

2011 文京区新たな公共の担い手専門家会議

提言書

文京区と新たな公共の担い手との協働の推進

提言1　区の基本姿勢

提言2　担い手創出の新たなスキーム

- stage 1　多様な主体が地域課題について語り合いアイデアを抽出し、プランを練る。
- stage 2　そのアイデアを何らかの形にしていく。
- stage 3　継続的に質の高い公共サービスを提供できるようになる

運用管理する組織の必要性

アドバイザリーボードや文京区などの役割分担※1

2012

2013 新たな公共プロジェクト 開始

2014 中間支援パワーアッププロジェクト検討委員会

2015 中間支援立上実行委員会

検討委員会報告書

フミコム 立ち上げの検討

2016 フミコム OPEN！

オープニングウィークの開催

社会福祉協議会の動き

2013 新たな公共プロジェクト 開始

2014 新たな公共プロジェクト成果検証会議

実施報告書

2016 成果検証会議報告書

「協働・協治」の実現に向けて取り組むべき方向性

1. 区民の関心あるテーマから、対話の場を通じた区民と地域の接点づくりに取り組む必要があります。
2. 区民の視点を大切にすること、区の多部署での協働を深めることで、区が把握できなかった課題の発見や問題の予防が可能になります。
3. 今後も３つのステージを一連のスキームで運営する取り組みを継続して実施していくことが望まれます。
4. 中間支援施設「フミコム」との連携を強化し、担い手の創出、育成及び支援に取り組む必要があります。
5. 地域の課題や活動を把握し、社会資源と結びつける、コーディネーター機能を地域に広げ、定着させることが必要です。
6. 「協働プロセスの重視型」の視点から、評価の仕組みをつくることが必要です。その際、社会的インパクトやコレクティブ・インパクト※2など、地域の総合的な課題対応力を高めるような視点が大切です。
7. 区が、新しい時代、新しい課題に、区民とともに柔軟に対応できるように、「協働・協治」の基盤づくりに継続的に取り組む体制が求められます。

「文京区新たな公共プロジェクト成果検証会議報告書」 概要版P10より

※1

アドバイザリーボード

社会起業家やNPOの育成などに関して専門的な知見を有する学識経験者や実務経験者で構成します。

主な役割

- 事業の将来性や実現性の見極め
- プロジェクトリーダー候補者の探索・選定
- プロジェクトリーダーへの助言

文京区

主な役割

- フューチャーセンター・ワールドカフェなどの対話のための場づくり、地域課題を解決するためのアイデアの抽出
- プロジェクトリーダーの事業構築への参画
- 事業構築に当たっての必要に応じた支援（事業費補助、情報提供など）
- プロジェクトリーダーの事業構築により創出された担い手との連携（契約・補助・後援など）

※2

コレクティブ・インパクト

社会的課題を解決するとき、個々の団体がそれぞれ特化したアジェンダに沿って活動するのではなく、NPOや企業、行政などのセクターを超えて、共通のアジェンダをもとにコミットすること。

マッチング・コーディネート事業

フミコムが大事にしているキーワードは「新たなつながり」。これまでつながっていなかった人・情報・資源などがつながることによって、活動が活性化されたり、課題が解決されるよう、さまざまなコーディネートを行っています。

Bチャレ　提案公募型協働事業

フミコムが目的としている「新たなつながりを創出し、地域の活性化や地域課題の解決を図るための協働の拠点」の体現化にむけて、「Bチャレ（提案公募型協働事業）」は、ボランティア・NPO・企業・行政・学生(学校)・ソーシャルビジネスなどによる地域課題解決の事業や、解決に向けて協働をするためのチャレンジに対する活動に助成しています。

実現・継続への活動フロー

Bチャレを実行するにあたり、フミコムや文京区、公共サービス、地域資源では主に以下の活動を経ることで、ともに地域課題の解決や地域活性化を目指しています。

行政課題の把握

01 文京区協働推進委員会（事務局：文京区区民課）で協議を行い、地域課題を抽出する

02 区民課は担当課へのヒアリングから地域課題の構造を知る

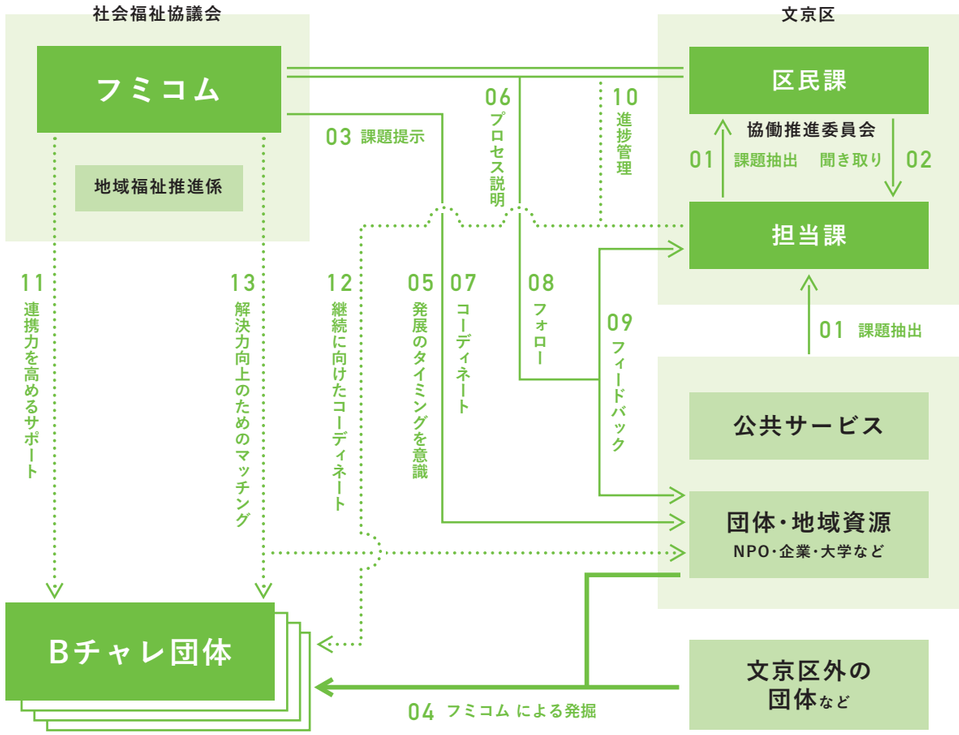
03 フミコムと区民課にて、情報を共有しBチャレの募集時に課題解決型として地域課題を提示

例えばフミコムでは…

行政として、すでに連携している団体の視察 ⟶ 対象：地域資源

区政活動情報を視察・チェック ⟶ 対象：担当課

協働推進委員会への参加・協議 ⟶ 対象：区民課



団体・地域資源の発掘や価値の最大化

04 フミコムにて、地域課題の解決や地域活性化に寄与しそうな団体を発掘し、地域で行いたいこと・役割分担を明確化・予算化する

05 発掘した団体が、協働事業として行うことで発展するタイミングをフミコムで意識し続ける

例えばフミコムでは…

活動視察・行政課題の説明・協議 ⟶ 対象：団体

文京区内外の団体の活動視察 ⟶ 対象：地域資源

連携している団体の確認 ⟶ 対象：担当課

既存事業での連携 ⟶ 対象：社会福祉協議会

団体と担当課との協議

06 フミコムと区民課で、団体・担当課に協働事業の構築プロセスを説明しニーズ・目標・予算などを協議のうえ決める

07 団体が協働の視点で提案ができるよう、フミコムがコーディネートする

08 ゴールを意識しながら、フミコムで団体や担当課をフォローし協働する

例えばフミコムでは…

協議全体をコーディネート ⟶ 対象：団体

団体との信頼関係構築のコーディネート ⟶ 対象：担当課

協働事業の実践

09 フミコムと区民課より、審査会・行政的視点からのフィードバックを団体に行う

10 団体の進捗を把握し、担当課のニーズの変化にフミコムが対応する

11 事業を通じて課題の解像度を高め、団体の連携力が高まるようなサポートをフミコムで行う

例えばフミコムでは…

進捗管理 ⟶ 対象：団体　担当課

協働事業の発信・連携の開拓 ⟶ 対象：地域資源

事業内容の報告 ⟶ 対象：区民課

文社協だよりなど活動周知 ⟶ 対象：社会福祉協議会

フィードバック・団体の自立に向けた伴走

12 担当課と協議の上、活動の継続に向けたコーディネートを行う

13 課題の解決力向上につながりそうな地域資源とマッチングをする

例えばフミコムでは…

自立に向けた伴走支援 ⟶ 対象：団体

解決力向上に向けて発掘 ⟶ 対象：地域資源

協働が継続できる仕組みづくり ⟶ 対象：区民課　担当課

地域資源とのマッチング ⟶ 対象：社会福祉協議会

Bチャレ8つのチェック項目

Bチャレでは、団体からのエントリーを受けて、文京区と社会福祉協議会で下記の項目の審査を行っています。
フミコムでは区民課とともに、提案された協働事業を担当する課のニーズについて、事前にヒアリングを行っています。

01 実施内容

団体が取り組みたい課題は、文京区のニーズを捉えられていて、明確なものか？

02 事業の目的・概要

解決したい地域課題の解決に向けたものとして合致しているか？

03 対象の明確さ

対象内容が明確であり、文京区で取り組む必要があるか？

04 実効性

事業スケジュールは実現可能であり、概要に沿った内容になっているか？

05 将来性

Bチャレを実施することで、今後の波及性も含めて展開が見込めるか？

06 費用の妥当性

実施に必要な費用が積算されており、妥当性があるか？

07 実施体制

事業実施に必要な実施体制か、
また関係図は他者が見て理解しやすい状態になっているか？

08 取り組みへの意欲

実績、熱意を含めて、Bチャレに取り組む意欲を担当者から感じるか？

文京区生活衛生課長　境野 詩峰さん

VOICE 行政

「ケムラン×文京区」で、
禁煙化に切り替えようとする飲食店を応援する仕組みができました

受動喫煙防止に関する条例などができたことで、飲食店から不安の声が挙がっていました。既に禁煙化したお店の成功事例を団体から発信することで、禁煙化に悩んでいるお店が一歩を踏み出すきっかけとなりました。団体から、文京区版として禁煙化したお店の紹介、「特派員」という飲食店以外の関係者との「新たなつながり」を生み出したことは、行政だけではできない仕組みで、お店にとって大変有意義なものだと感じております。今後も、紹介する飲食店が増えることを期待します。

support case

1

NPO法人　YouthCreate

小学生向けの「主権者教育の副教材」の冊子制作。文京区教育委員会・小学校・区内のデザイナーと協議を重ね、文京区の子どもの声も反映された「六義公園の再整備計画」を担当課から情報提供を受け編集しています。

デザイナー
保田 卓也さん　三上 悠里さん

形になっていない、意義ある内容をデザインする共同作業は有意義でした。みんなで思考錯誤しながら、ともに考えるプロジェクトでした。

support point

- **複数の関係者と協議を調整**
  行政、小学校の教育研究会などと協議を調整
- **デザイナーとのマッチング**
  文京区内のデザイナーと冊子制作をアレンジ
- **授業実施の調整**
  授業開催に向けて小学校関係者との協議を調整

現在は？

担当課と調整を重ねながら、小学校主権者教育副教材「よい街ってなんだろう はじめてまなぶ政治」、先生用教材の案内資料が完成。

【地域関係図】

2

ゆしまごころ実行委員会

湯島エリアのおける路上やお寺など地域スペースを活用した子どもイベントや地域の子育て情報をママパパ目線で取材し発信する地域誌の作成などを通じて、まちのファンを増やす活動を目指しています。

代表　大道寺 勇人さん

「座談会」を開催して、文京区に新しく住み始めた方が地域の活動に参加することの価値や課題が見えてきました。今後、何に意識すればいいのかヒントを得ました。

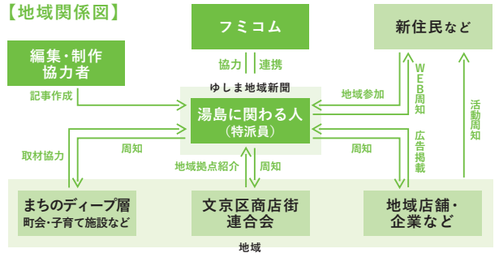
support point

- **実行委員会の活動視察・アドバイス**
  地域イベントの見直し時、運営についてアドバイス
- **地域資源とのマッチング**
  湯島エリアの活動団体、施設との連携を調整
- **文京区内大学と連携した共同研究の実施**
  文京学院大学のゼミとマッチング
- **子育て座談会の運営支援**
  関係者による座談会の運営ノウハウを提供

現在は？

「ゆしま子育て新聞」を定期発行。既存地縁組織の枠を超えたコミュニティが形成され、自主運営が可能な体制に。他地域での展開を希望する方の相談も受けています。

【地域関係図】



3

ケムラン～屋内完全禁煙飲食店を応援する会～

地域版として初となる「文京区」の美味しい完全禁煙飲食店を住民自らが特派員として取材・サイトで紹介することで、飲食店をキッカケとした住民間のつながりの醸成と、地域の受動喫煙防止活動の促進を行っています。禁煙化した飲食店の経験を共有することで、禁煙化に踏み切る飲食店の支援にもつなげています。文京区版ケムランの立ち上げでは、実際の区内の禁煙店を会場として「ケムラン特派員養成講座」を実施。住民参加型ヘルスプロモーションとして、他地域への展開も始まっています。

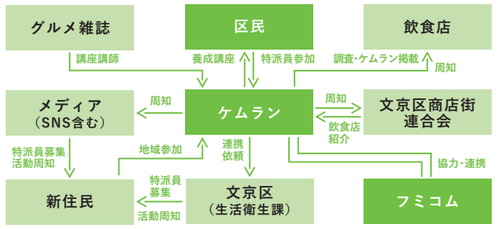
support point

- **地域版での展開を提案**
  新たに地域特化で行うことを提案して協議を重ねた
- **連携相手のマッチング**
  禁煙化をした飲食店をはじめ、地域資源を紹介
- **特派員養成講座の運営協力**
  団体として初の養成講座の運営ノウハウを提供

現在は？

地域活性化型→課題解決型へ。区内飲食店への周知など文京区生活衛生課と連携。多数メディアに取り上げられ、厚生労働省「第8回 健康寿命をのばそう！アワード」生活習慣病予防部門、厚生労働省健康局長優良賞を受賞。

【地域関係図】



管理人（大阪医科大学）
伊藤 ゆりさん

Bチャレを通じて、団体初の住民参加型の活動につなげることができました

Bチャレでのケムランの活動は、行政や区民だけでなく、区内のさまざまな団体とのコラボレーションが特徴となります。フミコムさんがその橋渡しをしてくださったおかげで、文京区にゆかりのない私たちが区民参加型の文京区版ケムランを始めることができました。この取り組みは住民参加型ヘルスプロモーションの先行事例として、高校の教科書にも取り上げられることになりました。大学や坂など文京区ならではのコンテンツを充実させ、文京区民の皆様とともに、飲食店における受動喫煙対策を「楽しく」取り組んでいきたいと思います。

飲食店 VOICE

禁煙にしようか悩んでいるお店には「禁煙にした方が売り上げ増えますよ」と話してます

千駄木・ビアパブ
ビアパブ イシイさん

クラフトビール好きはもともと喫煙者が少なく、吸えない店とわかっても帰る人は20人に1人くらいです。食事をする場所である以上、分煙は難しい。休みの日には小さなお子さん連れも多く、安心して楽しめると喜ばれています。

VOICE 特派員

ケムランを通じた学びを文京区の飲食店の魅力発信に役立てていきたいです

文京区内在住、特派員
伊藤 みどりさん

ケムランはフミコムcafeの伊藤ゆりさんのお話にはじまり、特派員養成講座のWeb映えする写真のコツなど、学びが多いです。特派員として活かすべく、最近、文京区版の学食特集で区内の学食巡りをしていますが、学食はケムラン店の宝庫で、紹介できるのが楽しみです。

4

サンカクシャ

不登校など支援につながりにくい子ども若者たちに会いに行き１対１の関係をつくる「アウトリーチ事業」、子ども若者が安心して集い自由に過ごす中で信頼できる人とのつながりをつくっていく「居場所事業」、そして子ども若者の興味関心に沿ったイベントなどの実施を通じて社会とのつながりを持ち、ありたい姿への実現を応援する「社会参画事業」の3つの柱で子ども若者に寄り添う活動を、豊島区・文京区を中心に行っています。

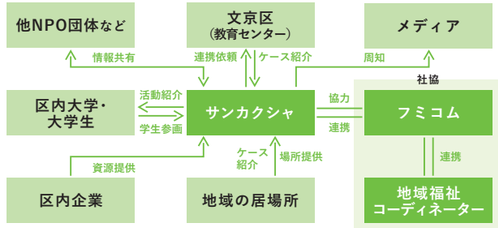
support point

- **フミコムcafeで周知**
  地域課題として子ども若者の孤立があることを伝える
- **地域の関係者との情報交換**
  地域の居場所運営者などとの顔の見える関係をアレンジ
- **教育委員会との調整**
  スクールソーシャルワーカーとの情報共有の場を設定
- **文京区内の大学教員の紹介**
  授業で団体紹介を行い、文京区内の大学生の活動参画を促す

現在は？

Bチャレの課題解決型として、中学卒業後の子ども若者が孤立しないように行政などと連携してつながりをつくる仕組みづくりにチャレンジしています。

【地域関係図】



代表　荒井 佑介さん

地域の子ども若者が多様な出会いや経験をできるよう、これからもつながりを広げていきたいです

文京区では中学生の不登校の出現率が高く、また困難を抱えた中学卒業後の子ども若者の居場所がないという話を聞いて、Bチャレに応募しました。文京区の教育センターなどとも連携しながらケースの紹介を受けると同時に、区内の大学にボランティア募集をかけ、研修を行って活動してもらっています。まだ始まったばかりの取り組みではありますが、フミコムや地域福祉コーディネーターに地域のさまざまな方をつないでもらいながら、子ども若者の興味関心に合わせた活動を展開していけるよう今後も取り組んでいきます。

地域 VOICE

NPOだからこそできる「支援らしさのない支援」に期待しています！

だんだんひろば　町田 直樹さん

「不登校の子ども」という支援対象に支援者として接するのではなく、個性を持った一人ひとりの子どもと、ともに関係性を育んでいく友人としてのあり方が大切だと思っています。支援のゴールが縁の切れ目にならない活動に期待しています。

VOICE 行政

行政とは違ったアプローチでの子どもとのかかわりに期待しています

教育センター　石津 陽子さん

中学卒業後は地域資源として孤立する恐れのある子どもをサポートする場が不足しているので、こういった取り組みはとてもありがたいです。制度内と制度外でうまく連携しながら、今後も子どもたちのサポートをしていけたらと思っています。

Bチャレ以外のマッチング・コーディネート

これまでに出会ってこなかった情報・人との出会いで活動に新たな風を送り込むコーディネート

企業地域連携推進ネットワーク会議は、企業の社会貢献担当者や新規事業担当者など、地域連携に関心のある方との情報交換、ネットワーキングを目的とした連絡会を年に数回実施しています。
当初は各企業の社会貢献活動の取り組みの紹介などを行っていましたが、フミコムが大事にしている「新たなつながり」を意識して、2018年度は、Bチャレの助成団体と文京区内大学の地域連携担当や学生支援担当、区内社会福祉法人の地域公益活動の担当者などにも呼びかけ、セクターを超えて地域連携のチャンネルを広げる試みを始め、早速「企業×社会福祉法人」のコラボも生まれてきています。
また、Bチャレや上記のような会議・事業に関わらず、日常的に団体の活動支援として、活動の幅を広げたり、活動内容を深められるような新たなつながりのコーディネート業務を相談対応として行っています。

企業地域連携推進ネットワークの経過

2016
- 第1回
  紹介、フミコムcafeについて、取り組み事例の共有、ボランティア・市民活動まつりについて
- 第2回
  企業×大学のコラボレーション事例、寄附付商品の事例、グループ懇談「さまざまなスタイルのコラボレーション企画で地域貢献・社会貢献を」、ボランティア・市民活動まつりの報告

2017
- 第1回
  地域課題を知る〜地域福祉コーディネーターが発見する地域課題〜
- 第2回
  企業と学生の連携による社会貢献の事例
  〜ベルノ・リカール・ジャパン株式会社〜

2018
- 第1回
  Bチャレ（提案公募型協働事業）助成団体紹介
- 第2回
  株式会社 御用聞きによる報告、文京区地域公益活動ネットワーク「夢の本箱プロジェクト」について
- 第3回
  講演「分野間協力・住民参加等の人々の協働による健康増進」、文京区発祥のダイバーシティスポーツ「カーレット」体験

support case

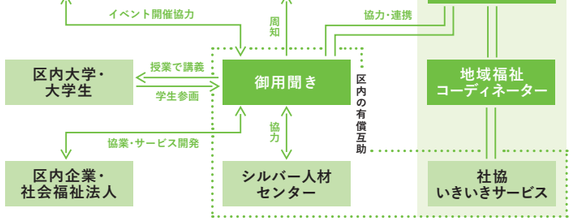
株式会社　御用聞き

「会話で世の中を豊かにする」をビジョンに、電球交換、びんのフタ開け、重い荷物の移動、パソコン操作のサポートなど、介護や福祉、医療の制度の隙間を埋めるような生活上のちょっとした困りごとを代行する5分100円からの生活支援サービスを行っています。高齢者に限らず誰でも利用することができます。御用聞き活動の主な担い手は学生で、現在180名余の学生が登録を行い、日々現場で活動しています。

support point

- **地域の有償互助団体との情報共有**
  シルバー人材センター、文社協のいきいきサービスとの協議
- **企業ネットワークでの事例発表**
  文京区内の他の法人との連携の可能性を探る
- **御用聞き事例報告会での運営協力**
  地域の人にも御用聞きの活動を知ってもらう
- **フミコムでの学生向け活動説明会**
  文京区内の大学生を含めた学生の参画をサポート

【地域関係図】



現在は？

シルバー人材センターとのコラボ事案
お互いの強みを生かしての連携してのサービス提供が実現

区内社会福祉法人との連携事業がスタート
利用者にも施設にもプラスになる「施設内御用聞き」開始

地域の居場所や商店街とのコラボ企画
衣料回収イベントを通じての地域住民との交流

大学生の担い手の増加
区内の大学生を含む学生の活躍、社会貢献の機会の増加

「新たなつながりによる課題解決」を目指して、御用聞きも超高齢社会でも生活者様が心豊かに生活できるようチャレンジを続けます

フミコムにつながったことがきっかけで、地元町会や商店街と地域支援の取り組みについて一緒に試行錯誤させてもらったり、活動説明会をフミコムで定期的に行うことで、学生の担い手が増えました。また、企業や社会福祉法人にもつながりが広がり、新たなサービス開発にもつながりました。
これからも引き続き生活者も担い手も笑顔が増えるようなよいサービスを目指していきます。

代表取締役　古市 盛久さん

VOICE 高齢者施設

社会福祉法人三幸福祉会
杜の癒しハウス文京関口　施設長　柳沼 亮一さん

入所者様にとっても、学生の担い手にとっても有意義なサービスを広げていきたいです

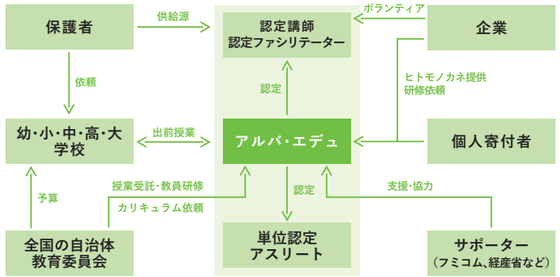
介護人材の不足が叫ばれる中、学生の担い手による「施設内御用聞き」を始めたことで、入所者様にとっても担い手の学生にとっても多世代交流の機会となっています。また専門職も専門性が求められる業務に注力できるようになりました。今後も入所者様の暮らしの向上のためにコラボの可能性を探っていきたいです。

support case

一般社団法人　アルバ・エデュ

「日本の子どもに話すちからを！」をビジョンに出前授業・カリキュラム提供・教員研修を通じ、公教育にプレゼン教育を導入しています。どんな意見も認めあえる環境がクラス内に醸成され、格差による分断が避けられるように。自分の「好き」を語り、社会に対する自己効力感を携え人生を切り拓いていく子が増えるように。人前で堂々と話せる子どもたちが日本中にあふれる未来を目指し活動しています。授業提供数18,791人（2019年12月末）

【地域関係図】



support point

- **教育委員会と協議するためのコーディネート**
  学校の担当課である、教育委員会と面談の場を設定
- **フミコムcafeで周知**
  「子どもたちの発信力」のスピーカーとして活動を周知
- **認定講師・ファシリテーター養成講座の会場提供**
  フミコムがキッカケで、講座に参加した人も
- **事務局メンバーへのマッチング**
  思いに共感した区民が運営側に参画

現在は？

文京区の重点施策として、小中学校で実施
「プレゼンテーション能力向上プログラム」の開催が実現

文林中学校でプレゼン力向上の効果が現れる
授業後に、自己肯定感・学習結果向上がデータで実証

文京区とプレゼン能力育成のカリキュラム開発へ
文京区全児童・生徒への教材提供決定

文京区長、経済同友会終身幹事（当時）との鼎談を実施
「好き」を言語化することの大切さを発信

竹内 明日香さん　芳澤 理香さん

世界の「正しさ」にとらわれない、自分自身の「好き」を原動力に思いを伝え、つながりを広げ、新たなチャレンジにフミコむ人が増えますように！

竹内は、各所で旋風を起こし、多くの人を巻き込み、団体を作りました。芳澤は、フミコムcafeをきっかけに、団体の理念に共感し、活動を支えるようになりました。
私たちは、授業で自分の好き、考えを言語化するメソッドを教えています。団体にはさまざまな“好き“を持ったスタッフが集まっています。子どもの声・表情が生き生きと輝く度に、それを活力に邁進してしまう人ばかりです。
自分の思いを自分の言葉で伝え、周囲を動かし、「アルバ・エデュ」の夢を形にしていきます。

子どもたちに寄り添って話す勇気と笑顔を引き出し、自分も元気で夢中になれるプレゼン授業のファシリテーター

一般社団法人 茶道クラブNomad Tea Culture
代表理事　茶道講師　野間 美有紀さん

フミコムでの説明会で代表のプレゼンに魅了され茶道にプレゼン力を盛り込みたいと思い、すぐに養成講座を受講しました。文林中学校への出前授業のサポートは、今まで関わりのなかった地域の学校と私との接点となり、我が子が転入するきっかけともなりました。ファシリテーター同士のつながりも楽しんでいます。

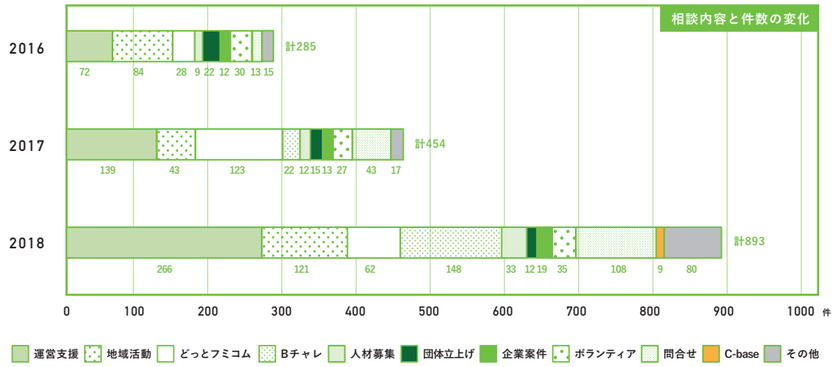
受講生 VOICE

相談事業

Bチャレやその他のマッチング事例も、全ては相談という形での出会いから始まっています。団体の思いや悩みをじっくり聞いて整理し、必要に応じて情報提供したり、新たなつながりをコーディネートしています。講座の企画も相談から生まれていることも。

相談の推移・傾向

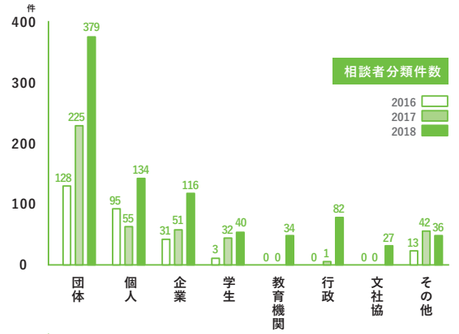
Bチャレ導入で相談も新たなステップへ



オープンから時間の経過に伴い、フミコムの認知度が高まってきたことで、相談者もこれまでつながっていなかった団体や企業、教育機関など幅が広がっています。また相談内容も団体立ち上げから、活動の広報や財源の話、新規事業開発まで多岐にわたるようになりました。他自治体などからの視察対応も増加しています。

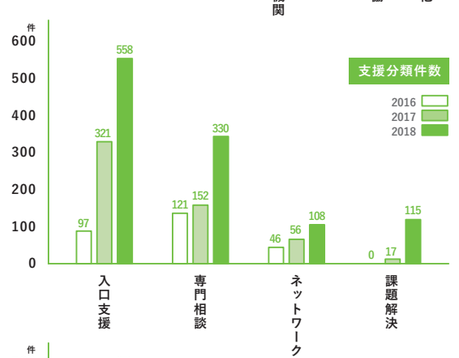
Q1 誰からの相談？

地域で活動するNPO団体が中心であることは変わりませんが、大学などの教育機関、学生（団体）、企業など幅が広がってきました。また、Bチャレ開始に伴い、行政との調整が増加していること、地域福祉コーディネーターから得た地域課題をどう新たなつながりで解決するかをともに考えるケースも増加しています。



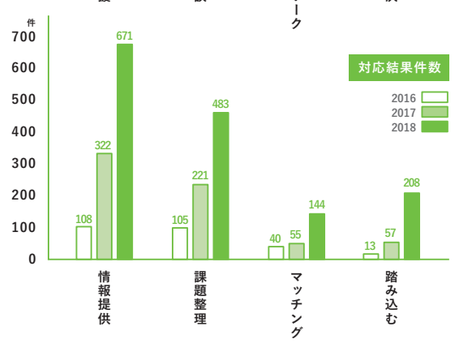
Q2 どんな相談と支援？

フミコムは医療機関に例えれば「家庭医」。専門的な診療や治療はしていませんが、どんなご相談もまずはお話の内容をじっくり伺って、可能な限り課題を一緒に整理したり、情報提供を行います。専門的なスキルを要するものは、専門機関などにつないだり、専門家に講座を開催してもらうなどの対応をしています。



Q3 相談後は？

当初は情報提供や課題整理が中心でしたが、フミコムの目指すところは「新たなつながりによる課題解決」。特にBチャレが始まったことにより、活動団体に新たなつながりをコーディネートする案件や、時に向き合い、時に寄り添いながら団体の活動がよりよくなるよう伴走して踏み込んだサポートが増加しています。



講座事業

フミコムで開催している講座は大きく分けて2種類あります。一つは、地域づくりの新たな担い手になり得る方が増えるようなキッカケづくりの場となるもの、そしてもう一つは、活動団体の課題の解決の一助となるようなものです。

講座の組み立て方

「やりっぱなしにしない」次への動線を意識した講座設計

座学の講座によくある課題としては、頭ではわかっても実際の行動にはなかなか移らないということです。また、フミコムで大切にしているのは、受講人数というより、講座受講後に実際にどれだけ行動が変わったかということ。そのために、新たな担い手づくりの講座では、講座が終わった後に実際に実践できる場をつくります。団体支援の講座では、学んだことと自団体の活動にどう生かすか個別相談を取り入れています。

1 新たな担い手の創出

＋

2 活動団体の困りごとに寄り添う

1 新たな担い手の創出

今まで地域活動の担い手になっていなかった人が地域に関心を持ち、活動への足がかりをつかむ場づくりを行っています。社会課題にどんなものがあるかを伝えたり、地域活動にも役立つスキルを学べたり、地域への関わり方を「キャリア」という切り口で見つめ直せるような講座やイベントを実施しています。

活動フロー

	フミコムcafe	フミコム朝活	活動入門講座
	地域で活動する人の紹介から、課題解決に取り組む人の紹介およびどういう課題に取り組んでいくかを伝える方向にシフトチェンジしました。	課題や活動ベースではなく、日常生活にも地域活動にも活かせそうなスキルを身につけて、地域で活かす準備を位置づけています。	「キャリア」をキーワードに働き方、生き方を見直し、他のイベントへの導線、複業や定年前のキャリアの棚卸しなど、時勢に合わせた見せ方を行なっています。
2016	既存のつながり中心 区内で活動する団体、企業などの紹介		組織づくり プロボノ※講座
2017	新たなつながり 区内でこれまでつながっていない団体を中心に紹介	グラフィックレコーディング SNS活用術（情報収集・発信） スマホカメラ撮影術 街の魅力を発見する歩き方	プロボノ講座 思いに気づき、広げる講座 50代向けの未来キャリア
2018	課題と解決に向けたアプローチの紹介 Bチャレ団体を含む課題解決の取り組み、区内外の紹介	グラフィックレコーディング（入門） チームビルディングとファシリテーション グラフィックレコーディング（実践）	複業を考える講座（一般・ママ向け） 50代向けの未来キャリア

※プロボノ：
各分野の専門家が、職業上持っている知識やスキルを生かして社会貢献すること

2 活動団体の困りごとに寄り添う

これまでの団体の活動相談の中で多いのは、「イベントはやるけれど集客が大変」「団体の活動はメンバーの持ち出しで成り立っている」など、広報や資金調達によるものです。では、なぜそれに困っているかを紐解いていくと、本当に伝えたい情報は「何」で、対象は「誰」かがはっきりしていないことがあります。

しかしながら、「あなたの活動は、何をすることで誰をどのように幸せにするのか？」とストレートに活動者に問いかけても集客が難しいため、活動者の困りごとに刺さる「チラシデザイン」「資金調達」のキーワードで講座を行い、それらのテーマを通じて自分の活動を振り返るということを目指しています。

また、全体向けの講座を実施しただけでは自分の団体でどう活かすかの視点がどうしても弱くなってしまうため、専門相談を実施し、知識のインプットだけでなく、実践に活かせるような動線を引いています。

活動フロー

2016	情報発信
2017	ファンドレイジング講座＋相談 チラシづくり講座＋相談 コラボを生み出す企画力
2018	ファンドレイジング講座＋相談 チラシづくり講座＋相談 キャッチコピー講座 （作成ワークショップ込）

pick up 1

フミコム朝活
グラフィックレコーディング

数年前から、議論や講演の様子などをグラフィックを用いてリアルタイムに可視化していく手法「グラフィックレコーディング」が注目を集めてきています。仕事や学校などの日常生活にも、また地域活動の場にも活用できるスキルを得る講座として実施しました。

活動フロー

2017 ····· スキルを磨く

まずは絵を描くこと自体の苦手意識をなくすために
さまざまな表情が描けるようにする入門編を実施しました。

「実際に練習したい！」との声が多く上がりました。

2018 ····· 実践の場で課題を知る

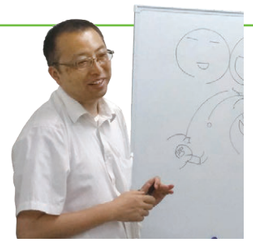
入門編を実践した方を対象に、話を聞きながらまとめる
実践編を実施しました。

「いきなりイベントで実践するのはハードルが高い」との声があり…

····· 描くことで課題を伝える人になる

気軽な気持ちでグラフィックレコーディングを練習できる
「フミコまナイト！」というプレゼン×イベント練習イベントを
月1回ペースで開催しています。

フミコまナイト！での練習を経て、他のイベントで実践する方が増えてきました。



本園 大介さん

一般企業に勤める傍ら、日々「伝える」についての研究を行う。グラフィックレコーディングで年間100件以上の実践や講座などを行っている。

VOICE 講師

絵を通して「伝える」「伝わる」楽しさや
チャレンジする気持ちがもっと広がっていきますように！

初めてのフミコム朝活のグラレコ講師から始まり、たくさんの方をフミコムで教えさせていただきました。当初はフミコムの壁に私のグラレコをたくさん貼っていただいていたのですが、今では教えた方たちがフミコムcafeなどで実践されたグラレコが大半を占めています。これはとても喜ばしいことです。さらには活動の幅がフミコム以外にも広がっていると聞き、嬉しい限りです。フミコまナイト！も実践の一つの場として盛り上がったりと、今後は今までの実績だけで満足せずに、愚直な継続はもとより、新たなチャレンジも引き続き続けて行きたいと思います。

松本 望美さん

VOICE 受講者

描くことを通じて
新しい世界にも踏み込めました！

講座受講のきっかけは、グラレコへの興味と、会議の活性化です。フミコムcafeでのグラレコ実践では自分が普段あまり意識をしていない社会問題に接するきっかけができ、また、フミコム経由でボランティア参加や他団体でもグラレコする機会ができました。今後はグラフィックファシリテーションを学んで、議論の活性化のお手伝いもしたいです。

VOICE 受講者

記録だけでなく交流のきっかけにもなるグラレコ！

テレビのニュース解説番組で議論の後方で絵を描いている人が気になったことがきっかけで「やってみたい！」と思い、受講し実践しています。絵で描く板書は、皆さんの想像を超えるらしく、休憩・終了後に声をかけられ、メモとしての役割だけでなく交流のきっかけを与えてくれます。

斎藤 みささん

pick up 2

広報力アップ講座
あなたのそのチラシ、伝えたい人に伝わっていますか？

デザインといっても見映えの良いグラフィックデザインでなく「伝えたい相手は誰で、どういう経路で情報は伝わるか。そのためにどんな情報をどんな風に見せると伝わりやすいか。」をコミュニケーションデザインの観点から学びます。デザインの基本を座学で学びつつ、共通の課題を受講生の方に提出してもらい、一人ひとり作成したものにレビューを加え、伝わるデザインのコツを学んでもらう実践講座を開催しました。

活動フロー

2017 ····· 広報の基礎を学ぶ

集客に苦戦しているという相談が多いので、
「チラシ」を切り口にそもそも広報とは何かを考えてもらいます。

広報の目的は相手との「信頼関係の構築」と学びました

2018 ····· 団体の活動の振り返り

チラシづくりに取りかかる前に、そもそも自分の団体は
「誰に」「何を」する活動なのかを振り返ってもらいます。

座学だけでなく手を動かして考える時間が大切です

····· 伝える相手や手段の振り返り

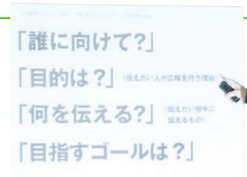
活動を知ってもらいたい相手は誰なのか、
その人はどういう手段で情報にアクセスするのかを
考えてもらいます。

つくったチラシの講評を具体的にもらうと改善ポイントが見えます

VOICE 講師

なぜ講座を行うのか？
それは“学ぶこと”だけでなく「実践」し、「成果」をあげるため

私が講座をやらせていただく際、参加者が自発的な行動に移せるような設計にしています。「実践」しなければ「成果」はない。つまり「無駄」です。フミコムさんには、その想いに共感していただき、一緒に講座をやらせていただきました。
また、フミコムさんは、住民へのきめ細かいサポート、参加者目線の魅力的な企画講座など、まさに中間支援組織の“お手本”となるような活動をされており、今後も目が離せません。引き続き、住民に寄り添った中間支援を続けられることを期待します。



谷 浩明さん

杉並区で広報専門監として勤務する傍ら、コミュニケーションデザイナーとして自治体・NPO・市民団体など、非営利組織のための広報・デザイン研修を多数実施。広報・情報学修士(MICS)。

VOICE 受講者

デザインの本質
「誰に何を伝えたいのか」を学びました！

文化シヤッター株式会社
CSR統括部
土方 智希さん

講座受講後に作成したチラシは、デザイン的に見やすくなっただけでなく、目的や目指すべきゴールなど“活動の本質”を伝えるツールに生まれ変わりました。社内外から「以前のチラシから見違える程変わった」とご評価いただき、イベント来場者の増加などにもつながりました。

VOICE 受講者

目から鱗、チラシの見方が変わり、
実践で役立った！

この講座で、チラシの構成、見やすいフォントの選び方、目立たせたい文言の配置や大きさ、また色の繰り合わせ方など、なるほど！と思うポイントをたくさん学ぶことができました。講座終了後、"大名文化入門"イベントのチラシ作成に取り入れ、集客にもつながったと思います。

M&P JAPAN
布施 真規子さん

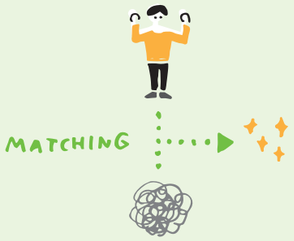
課題と展望

課題

1 課題 何が一体成果なのか？

P18以降に記載したとおり、フミコムcafeや講座は団体のニーズに合わせて増やし、参加者は増えています（P24～25参照）。また、P17のようにBチャレ（提案公募型協働事業）（以下、「Bチャレ」）がスタートしてから相談件数は増加しています。フミコムとしての成果は、来場者や相談件数が増えればいいのでしょうか。

2 課題 求められたのは地域課題の解決



P6～7に記載されている「新たな公共の担い手プロジェクト」では、今後の課題として「協働で地域課題の解決に取り組むこと」が挙げられています。担い手を増やしていくと同時に、その担い手の関心がある地域課題にマッチングをし、課題に取り組む状態をつくることこそがフミコムへの期待として求められています。

3 課題 地域課題の抽出の困難さ

行政や社協には多くの相談が入ります。しかし、地域課題や社会課題は広範囲にわたるため、市民活動として行う方がいいもの、行政や社協の事業として行うべきものなどがあり、課題とその活動をピンポイントで取り組むことができる担い手のマッチングは難しいのが実情です。また、おそらく市民も地域課題に気づいてはいるものの、それを引き出すきっかけがないと「これは地域課題だ！」と認識しづらいのではないでしょうか。

4 課題 市民が担い手となり取り組むべき範囲の設定

特にBチャレについては、行政の抱える地域課題を挙げ、それに対し解決できる市民を募集するというものです。文京区の庶務担当課長を中心とした協働推進委員会を開催し、そこを通してアンケートや聞き取りを行い、課題を抽出、ブラッシュアップを行っています。そこでも市民と協働で解決していく課題の範囲について議論がありました。

5 課題 福祉分野以外のニーズ把握

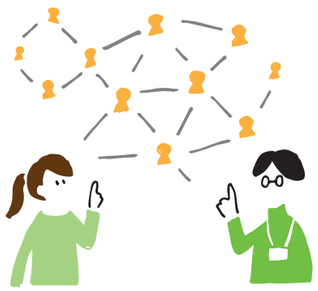
一方、福祉に近い範囲の課題抽出については、取り組む範囲が広い地域福祉コーディネーターが把握していることが多いです。低所得、不登校、外国にルーツを持つ人々、ひきこもりなど、現状の制度や政策で十分にカバーしきれない問題を住民と取り組むことが多いため、課題の抽出がしやすい状況にあります。しかし、福祉以外についての課題は把握しづらいという面もあります。

6 課題 伴走型の支援体制

課題を解決する市民・団体側にもさまざまな背景があります。体制がしっかり整っていない、本来の事業がありそれがうまくいかなくなったなどです。そこに伴走支援をし続け、必要に応じてサポートできる支援体制が必要です。P8.9にあるBチャレの伴走支援のフローや、P17の相談件数と内容の変化のグラフからもわかるように、伴走型の支援には、マンパワーと専門性が求められます。

展望

1 展望 地縁関係ネットワークとの連携強化



地域福祉コーディネーターが持っている地縁関係者のネットワークと、フミコムが把握する協働の担い手、また福祉以外のネットワークとの結び付けが課題解決に重要なポイントとなります。協働の担い手が地域の中で活動を展開するうえで、地域福祉コーディネーターを通じて地域の方たちとも協働していくことが活動の持続可能性につながっていくと考え、さらなる連携強化を図っていきます。

2 展望 協働型プロジェクトの推進

助成金など、お金を出すだけでは協働とは言えません。さらにBチャレだけでなく、常時、協働型のプロジェクトを推進していくことが重要です。そのプロジェクトがうまくいくように、協力者を結びつけるなどの伴走支援を行うことで、活動が自立し発展していくことがフミコムとしての重要な役割だと考えています。

3 展望 協働の事例発信

P11～16にあげたような協働の事例が生まれてきています。これらの事例は課題と担い手、協力者をマッチングし実現したものです。このような好事例を発信し、協働のイメージを広げていくことが、今後の協働推進において重要なことであると考えています。

＼＼ 文京区としての展望は？ ／／

文京区内の協働推進は、行政と社協の連携が重要です。記載の通り、協働についての課題抽出は難しいものではありますが、協働の好事例が出てきています。このような好事例を参考に、文京区職員に対し、協働推進の意識を醸成するような機会をつくっていきたいと考えています。

文京区区民課長　竹田 弘一さん

フミコムcafe実施実績一覧

	実施日時	タイトル	ゲスト	人数
2016 平成28年度	4月4日	これが文京区が目指すソーシャルイノベーションだ！	広石拓司（(株)エンパブリック） 古市太郎（文京学院大学人間学部助教） 阪本晋一（文京区区民課） 平石進（文社協）	302人
	4月5日	子どもはみんなで育てるもの 文京区の子どもの未来について考えよう！	中島修（文京学院大学人間学部准教授） 鈴木秀洋（元文京区男女協働・子ども家庭支援センター） 工藤玲子（子ども守る目コミュ@文京区） 古市太郎（文京学院大学人間学部助教）	
	4月6日	社会福祉協議会が考えるフミコム！ こんな生活課題が解決できる！	森本真奈美（ボランティアCo.） 浦田愛（地域福祉Co.） 田邉健史（活動支援Co.）	
	4月7日	企業と商店街がコラボレーション！ 地域とのつながりを探ろう！	塚本敦子（文京区商店街連合会事務局） 寺澤弘一郎（白山上向丘商店街振興組合） 長谷川大（NPO法人 街ing本郷） 大道寺勇人（㈲十字屋商店） 小宮愛（文化ｼﾔｯﾀｰ㈱） 橋本正博（東京ケーブルネットワーク㈱） 金澤寛子（(株)シード） 伊佐間陽子（文京区経済課産業振興係） 林大介（東洋大学社会学部非常勤講師）	
	4月8日	空き部屋・空き家で地域活性をしよう！	三縞鮫（こまじいのうち事務局長） 奈良部年緒（(公社)東京都宅地建物取引業協会文京区支部、千駄木不動産） 杉下明穂（文京区危機管理室危機管理課） 林宏興（㈱リクルートｱﾄﾞｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ、こまじいのうちKRP）	
	4月9日	居場所づくりと多世代交流について語ろう！	船崎俊子（こまじいのうちマネージャー） 八木晶子（さきちゃんち運営委員会） 山内哲也（リアン文京総合施設長社会福祉法人武蔵野会） 小林良二（文京区地域福祉活動計画策定委員会委員長）	
	4月9日	フミコムcafe ～あなたのキャリア×みんなのネットワーク～		
	5月30日	企業と地域の新たなつながり	小宮愛（文化シヤッター㈱ CSR統括部） 水林 ジュリア（ベルノ・リカール・ジャパン㈱人事・コーポレートコミュニケーション本部）	56人
	6月18日	育児から始まった地域のつながり	堀込泰三（秘密結社主夫の友CEO、本郷小学校PTA本部役員） 高山陽介（㈱ わてか代表取締役 、ぶんきょう子育て応援フリーペーパーうふ・ふ プロジェクトリーダー）	23人
	7月27日	つながりたい人の暑気払い		86人
	8月24日	楽しんで知る企業・学生の活動	鈴木翔（バイオニア株式会社法務・リスク管理部 CSR・環境推進室） 畠山亮（東洋大学社会学部社会福祉学科 4年生、こまじいのうち ボランティアコーディネーター）	35人
	9月28日	地域×学生 連携のヒントを探る	山本和子（表町町会副会長、気仙沼大谷こども未来基金 管理責任者、磯川おやじの会、㈲宏文堂今井文具店） 西牟田章士（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻2年、本郷書生生活）	41人
	10月19日	地域×スポーツの持つ力	福田 雅（(一社)CLUB LB&BRB共同代表理事、監督） 山口幸伸（フクダ電子㈱ AED事業部） 小宮愛（文化シヤッター㈱ CSR統括部）	38人
	11月19日	フミコムcafe In 文京ボランティア・市民活動まつり2016 「同じ支援を違った視点で」	プロジェクト"M"（南三陸の復興支援を行う学生中心の団体） 鈴木正人（南三陸復興大使、NECネッツエスアイ）	28人
	12月19日	フミコム望年会 ～来年の活動を望む交流会～		36人
2017 平成29年度	1月28日	子どもたちの発信力	竹内明日香（(一社)アルバ・エデュ代表理事） 芳澤理香（food moVing on!!!）	21人
	2月22日	ブームで終わらせない支援 ～学習支援の現場から～	古市太郎（文京学院大学人間学部助教、(一社)てらまっち理事） 小林普子（特定非営利活動法人みんなのおうち理事）	35人
	3月22日	お祭りから始まる地域活性化	山本陽平（㈱ オマツリジャパン共同代表） 大道寺勇人（白梅商店会 青年部）	36人
	4月6日	ふらっとフミコム	土居洋平（跡見学園女子大学地域交流センター長） 池田木綿奈（中央大学りこボラ！） 金澤寛子（㈱ シード経営企画部係長） 古市太郎（てらまっち理事、文京学院大学助教） 森川寛信（パパ絵本） 池永 富美子（小石川ウーマンベース）	65人
	5月31日	バリアフリーは誰のもの？	太田絵里子（トヨタ自動車㈱社会貢献推進部 企画コミュニケーショングループ） 山内礼美（トヨタループス㈱ 管理部 経理・総務グループ）	62人
	6月12日	現場発！ 学生が伝える"ボーダーレス社会"	中柴智貴（Explore Japan） 岡野香帆・工藤みなみ（東洋大学日本語教室SPIRIT）	21人
	7月28日	ー歩、踏み出す。出会う・つながる・見つかる café		49人
	8月26日	ー冒険遊び場 プレーパーク実践から考えるー "あそびの生まれる場所 "が地域を育む。	ぐうちょきパラダイス（文京区にプレーパークを作る会） 西川 正（コミュニティワーカー、NPO法人ハンズオン埼玉理事）	31人
	9月27日	ー文京女子の、文京女子による、文京女子のための サッカークラブからみるー 地域を盛り上げる女子力	文京LBレディース	17人
	10月24日	"職人の誇り"が社会を元気に	伊藤丈史（(一社)建設職人甲子園 東京地区理事長）	11人
	11月18日	ーゴミ拾い参加型ボランティアプロジェクト「グリーンバード」に学ぶー ゴミをよく拾うひとは、すごくイイモノもよくひろう。	谷村一成（グリーンバード中央大学チーム） 岩澤 昂（都文館グローバル高校3年生） 浅倉しいな（都文館高校3年生）	25人
	12月20日	ーつながるヒント探しー 文京区をよくするアイディア見本市	NPO法人パパ・イングリッシュ！ 文京文化交流クラブ NPO法人市民科学研究室 NPO法人sopa.jp food moVing on!! F2名刺クラブ NPO法人カーレットジャパン協会 パパとコ NPO法人子育てkitchenグループ 文京どれみふぁ～む NPO法人ソーシャルプロデューサーズ NPO法人日向ぼっこ 足育研究会（一社)コミュニティ・カウンセラー・ネットワーク NPO法人ReSDA(リライフ社会デザイン協会）	40人
	1月20日	ーのれんくぐればパラダイスー 銭湯が沸かす まちの魅力	岡崎登（文京浴場組合支部長、大黒湯店主） 塩川浩司（アートディレクター、文京浴場組合のアートディレクション担当）	38人
	2月22日	「困ってる」からはじまること ～世界希少・難治性疾患の日(RDD)から考える～	大野更紗（作家、2011年刊『困ってるひと』著者） 西村由希子（NPO法人ASrid理事長）	16人
2018 平成30年度	3月24日	～アルカルってナニモノ?～ みち(未知・道)が広がる歩き方	平賀直武（デンソー・ソーシャルデザインチーム） 土屋俊博（NEC共創活動・地方創生・企業グループマネジメント担当、中小企業診断士）	18人
	4月24日	ー家族、恋人、友達、職場の仲間、そして知らない誰か … みんなが笑顔になるー "あなたも誰かのサンタクロース"	清輔夏輝（NPO法人チャリティーサンタ 代表理事）	23人
	5月29日	シカクい政治をマルくする ーデザインの力で"とっつきにくさ"をブレイクスルーー	原田謙介（NPO法人YouthCreate 代表理事） 保田卓也・三上悠里（デザイナー、「憲法のきほん」主宰）	50人
	6月26日	子どもをひとりぼっちにしない ーどんな子どもも社会のピース 一緒に未来を創造していくPIECESの取り組みに学ぶー	荒井佑介（NPO法人PIECES 副代表理事）	60人
	7月21日	私らしく過ごせるまちの居場所 ー（親子カフェほっくる）が見つけたまちの居場所づくりのコツー	小山訓久（NPO法人リトルワンズ 代表理事）	10人
	8月22日	暮らしがもっと楽しくなる！ ーまちのオンラインひろばをつくろうー	矢野晃平（PIAZZA㈱ 代表取締役）	17人
	9月21日	ケムラないお店で、美味しい出会いを ～完全禁煙飲食店まとめ サイト「ケムラン」からひろがる人の輪の秘訣～	伊藤ゆり（「ケムラン」管理人、大阪医科大学准教授）	31人
	10月24日	ー超高齢社会の＜地域包括ケア＞に向けた株式会社御用聞きの挑戦ー 「会話」で世の中を豊かにする	古市盛久（㈱ 御用聞き 代表取締役）	44人
	11月17日	ーまちを元気にするアイディア大集合！ー 新たなつながりを生み出す活動見本市	NPO法人YouthCreate チャリティーサンタ文京支部 ケムラン クリエイターチームカラフル (一社)CLUB LB-BRB NPO法人PIECES NPO法人Social Change Agency (一社)alba edu. (一社)日本グローバル演劇教育協会 (一社)コミュニティ・カウンセラー・ネットワーク bunkyo blanc ㈱ さんぽみち総合研究所 エーザイ株式会社 文化シヤッター㈱ ㈱ 新興出版社啓林館 文京学院大学 Trading City研究会 関西伝統工芸品ボランティアガイド協会 NPO法人Motivation Maker 本郷搾り屋	100人
	12月20日	新たな一歩を踏み出したくなる望年交流会	尾川宏豪（文京まちライブラリーネットワーク） 河口那津子（都上おどりを通じた地域とのつながりづくり）	
	1月23日	外国人が「日本で暮らす」ということ ー実践者が語る「多文化共生」のリアルー	原田麻里子（東京大学グローバルキャンパス推進本部留学生支援室、ぶんきょう多文化ねっと）	60人
	2月20日	あなたの生きるは誰かの生きるにつながる ー難病でも働ける社会へー	重光喬之（NPO法人両育わーるど創設者・理事、脳脊髄液減少症当事者）	20人
	3月20日	ー難しい、だからおもしろい ー「協働」がうまくいくコツを考えよう	三縞鮫（NPO法人居場所コム副理事長、元文京区役所職員） 新妻恵（府中市協働推進課協働推進係長）	35人

フミコム実施講座一覧

	実施日時	種別	タイトル	講師
2016 平成28年度	9月30日	専門相談	WEBを使った情報発信	安藤昭太（㈱カルミナ 代表取締役）
	10月11日	専門相談	活動資金調達の方法	久津摩和弘（(一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長）
	10月11日	ファンドレイジング講座	お金がないで終わらせない	久津摩和弘（(一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長）
	11月2日・16日・30日	入門講座	"キッカケ"のシカケ ー主体的なメンバーが集まる戦略的組織づくりー ①自分の想いをまとめる ②仲間たちを巻き込む ③スタートさせるコツ	山ノ内凛太郎（(一社) ISP代表理事）
	12月3日	プロボノ講座	"2枚目の名刺"を持つ一歩をフミコム講座	廣 優樹（NPO法人二枚目の名刺代表） 安東直美（NPO法人二枚目の名刺ディレクター）
	12月14日	ファンドレイジング講座	「お金がない」の次の一歩	久津摩和弘（(一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長）
	12月16日	専門相談	法律家に聞くNPO相談 ー非営利団体のための弁護士による専門相談ー	塙 創平（弁護士、日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー）
	1月18日・29日・2月1日	企画運営講座（広報）	ファンが増える"情報発信術" 第1回 情報発信のイロハ 第2回 地域活動者への取材実践 第3回 取材記事の発表(講師からのﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ)	及川敬子（文京区子ども・子育て・まち情報JIBUN主宰、元新聞記者） 石橋俊治（プードル写真所トーキョー代表、『荒川102』記者兼カメラマン）
2017 平成29年度	2月20日	専門相談	非営利法人のための税務相談	脇坂誠也（税理士、NPO会計税務専門家ネットワーク理事長）
	6月28日・7月5日・12日	企画運営講座	コラボを生み出す企画力 ①ニーズに合わせた企画力 ②思いを伝える企画力 ③他団体とコラボで企画力アップ	米元洋次（合同会社Active Leaners 共同代表）
	7月7日・14日・21日・28日・8月4日	朝活	グラフィックレコーディング入門講座 コミュニケーションが苦手な人の絵ミュニケーション	本園大介（グラフィックコミュニケーター）
	8月7日	ファンドレイジング講座	親子で学ぼう お金と社会貢献の素敵な関係	大石俊輔（日本ファンドレイジング協会 プログラム・ディレクター）
	9月10日・13日	プロボノ講座	フミコム×もうやん文京 あなたの当たり前が、きっと地域の役に立つ	川西克典（もうやん文京主宰） 森力也（サメ社会学者） 桜乃まゆこ（ヨガインストラクター） 麻生彰一（知育ゲーム「990（くくまる）」を開発した現役大学生） 藤田一郎（スマホアプリ「英読」開発者）
	9月29日・10月6日・13日・20日・27日	朝活	世界を広げるSNS活用術 ①ソーシャルメディアとは？ ②SNSとは？ ③各種SNSの使い分け ④守りのSNS（セキュリティや心がけ） ⑤攻めのSNS（効果的な発信）	秋本創（NPO法人埼玉情報センター 事務局次長）
	11月24日・12月1日・8日・15日・22日	朝活	スマホでセンス良い写真を撮るコツ教えます 五感に響くテクニック	河中俊樹（㈱アップワード取締役）
	11月25日・12月2日	企画運営講座	あなたのそのチラシ、"伝えたい人"に伝わっていますか？	谷浩明（クリエーティブディレクター デザイナー）
	1月20日	企画運営講座	チラシづくりの個別専門相談	谷浩明（クリエーティブディレクター デザイナー）
	12月9日	ファンドレイジング講座	団体運営を楽にする活動資金の集め方 ミニ講座＋個別相談会	高橋麻子（認定ファンドレイザー）
	12月13日・20日・1月10日	入門講座	自分に気づき「思い」を拡げるアプローチ ①思いを知る ②思いに気づく ③思いを拡げる	別役慎司（(一社)日本グローバル演劇教育協会 代表理事）
	1月27日・2月3日	入門講座	50代からの自分再発見と未来キャリアのつくり方 ー地域にフミコム編ー	安部博枝（NPO法人リライフ社会デザイン協会）
	2月17日	朝活	【フミコム土曜朝活】朝飯前のカンタン情報発信術 ホームページを使った地域イベントの広め方	講座：宇部和真（ベライチ公式 千葉県代表サポーター） 相談：添田健（ベライチ公式 東京都代表サポーター） 坂本愛（ベライチ公式 栃木県代表サポーター）
2018 平成30年度	3月24日	朝活	【フミコム土曜朝活】Explore Bunkyo 歩いて知ろう文京区の魅力	中柴智貴（(一社)Explore Japan代表理事）
	6月16日・30日	朝活	絵でまとめる、伝わるコミュニケーション グラフィックレコーディング入門講座	本園大介（グラフィックコミュニケーター）
	7月7日	入門講座	ー100年人生の棚卸しー 複業で見つける新しい自分	芦沢壮一（スキルノート主宰） 菅野昭彦（広告会社勤務、NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会理事、情報サイト「留学生通信」企画編集など）
	7月13日	ファンドレイジング講座	地域の居場所運営のためのファンドレイジング	久津摩和弘（(一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長）
	8月4日	活動入門講座	50代からの自分再発見と未来キャリアのつくり方 ー地域にフミコム編ー③	安部博枝（NPO法人リライフ社会デザイン協会）
	8月22日・29日・9月12日	広報講座	あなたのそのチラシ、"伝えたい人"に伝わってますか？ 個別相談	谷浩明（クリエーティブディレクター、杉並区広報専門監）
	9月1日・8日	朝活	グラフィックレコーディング入門講座（追加開催）	本園大介（グラフィックコミュニケーター）
	10月13日・20日	朝活	朝から遊んで学ぶファシリテーション	田中純（(一社)コミュニティ・カウンセラー・ネットワーク）
	10月20日	広報講座	魅力が伝わる団体キャッチコピー	林田全弘（小さなNPOを応援するグラフィックデザイナー）
	12月8日	入門講座	私らしく、やりたい事を仕事にする方法 ～母親業＋〇〇という働き方～	芦沢壮一（スキルノート主宰・ファシリテーター） 大山夏希（PRプランナー）
	12月8日	ファンドレイジング講座	団体運営を加速する活動資金の集め方	高橋麻子（認定ファンドレイザー）
	1月26日・2月2日	入門講座	ポジティブ・アプローチで描く50代からの未来キャリア ー地域に一歩踏み込む編ー	安部博枝（㈱abilight 代表取締役、NPO法人リライフ社会デザイン協会 理事）
	2月2日・9日	朝活	絵でまとめる、 伝わるコミュニケーション グラフィックレコーディング実践編	本園大介（グラフィックコミュニケーター）

おわりに

3年間を振り返って
「テーマ型コミュニティとエリア型コミュニティの協働」への挑戦

フミコムへの関わりは、3年前、正確にいうなら4年前になる。4年前とは「新たな公共プロジェクト」の引き継ぎをめぐり「中間支援パワーアップ・プロジェクト検討委員会」が発足した年である。そこには「テーマ型コミュニティとエリア型コミュニティの協働」という問題が突きつけられていた。文社協がこのプロジェクトを引き受けられたのは、どうしてなのか。それは、地域福祉コーディネーターをはじめとする「住民ニーズの把握」ができていたからだといえよう。そのニーズの把握が「テーマ型とエリア型の協働」の一歩目を可能ならしめ、こうした実績があったからこそ、ニーズの「蓄積・活用・接続」のための基地として、フミコムが創設できた。このような経験をさせていただいたおかげで、本年度4月、本学に「まちづくり研究センター（通称：まちラボ）」ができた。今後は、地域ニーズに即した機関ごとの協働を目指していきたい。

文京学院大学　まちづくり研究センター（まちラボ）長
古市　太郎さん

社会福祉協議会だからこそできる、
地域に根ざした中間支援の一層の展開を期待する

文京区社会福祉協議会に開設されたフミコムは、新たな公共の担い手であるボランティア団体やNPO法人、企業などの地域活動を支援する中間支援施設としてオープンしてから4年目を迎えたが、この間、さまざまな模索を行いながら、着実に成果をあげていることに敬意を表したい。一般的に中間支援施設の役割は、活動団体が地域課題に取り組む際に、情報、技術、人材、資金などの資源の紹介・調整を行うほか、組織目標の設定を含む活動の立ち上げ・運営支援・他の関係団体との連携支援を行うこととされるが、この報告書を読むとそれぞれの団体の課題に即して丁寧な伴走型の支援を行っていること、フミコムcafeでの数多くの講座によって、文京区内外の専門家や関係者によるさまざまな知識や技術の共有を行い、立場にとらわれない人材(財)のネットワークを形成していることが注目される。またこのような活動支援を行う上で、平成24年から文社協内に設置された地域福祉コーディネーターとの情報共有や連携が重要な役割を果たしている点も興味深い。今後も、フミコムによる支援によって、地域に根差した多くのユニークな活動が展開されるよう期待したい。

東京都立大学名誉教授　文京区地域福祉活動計画策定委員長
小林　良二さん

地域連携ステーション フミコム（社会福祉法人文京区社会福祉協議会）

113-0033　東京都文京区本郷4-15-14 文京区民センター地下1階

開館時間　月～土　9:00～21:00（相談対応は原則として19:00まで）
　　日・祝　9:00～17:00
電　　話　03-3812-3044
E-mail　fumikomu@bunsyakyo.or.jp
W E B　https://fumicom.tokyo

2020年1月発行

製作　めぐるデザイン 髙田 康代
instagram account : megurudesign